

みなさんからの素敵な
情報を待ってます！

自分たちの手で川沿いを美しく

尾篋地区女性部がコスモス整備



福岡蔵本の尾篋地区の女性部「コスモス会」の皆さんは、3年前から薬師橋付近の白石川沿いにコスモスを植えています。

「切通公園」の整備をきっかけに、対岸は自分たちの手で整備しようと始められたもので、9月15日の早朝、コスモスがよく見えるようにと、今年3回目となる周辺の草刈り作業を行いました。

この日は、あいにくの小雨模様にも関わらず、同地区青年部「一步会」の皆さんも加わって、約30名で作業を行いました。

若い労働力の確保・育成を

ハローワークと共同で要請活動



9月12日、高校生の求人解禁を前に、川井市長がハローワーク（白石公共職業安定所）と共同で市内の企業13社を訪問し、新規学卒者を中心とする若年労働力の確保・育成を要請しました。

長引く景気低迷のなか、市内の雇用情勢は依然として厳しい状況が続いていますが、ソニー白石セミコンダクタ（株）では、生産能力増強のための新棟を10月に建設着工し、今後十数名程度の人員増が見込まれるなど、明るいニュースも入ってきています。

九月三十日、広域農道コスモスラインの「川崎トンネル貫通式」にお招きをいただいた際に思い出した。

高速自動車道が一ノ関まで開通する前、山本壮一郎元宮城県知事が、気仙沼に行く用事があって、土木部長と県庁をスタートした。ところが後から出発した県知事の車が到着したのに、まだ土木部長の車は着いていない。

どうしてそんなに差がついたのかと、知事がいぶかってたずねたところ、知事の運転手は広域農道を使って最短距離を突っ走った。ところが土木部長はメンツがあるので、広域農道を使うことなく、国道・県道を走ったために、遠回りになったという。山本先生から直接お聞きした本



川井市長の せせらぎトーク

■コスモスライン回想■

当の話である。

事ほど左様に広域農道は便利なものであるから、各地区の引っ張り合いで、難産が多かった。

コスモスラインは、白石・蔵王・川崎をつなぐ道路で、昭和六十三年に採択になり、総事業費八十八億あまり、総延長十六キロである。

これに対して蔵王さくらロードは、角田・大河原・村田を連結する道路で、総事業費約九十億、延長は約十一・五キロである。

このどちらを先に採択するかというところで猛烈な争奪戦が行われた。

柴田地区の県議や首長と、白石・刈田地区の県議や首長が、お互いに我が田に水を引くので、たまったものでは

ない。私が調整役をおおせつかったもの、なんせ市長になりたてのペイペイである。とても県議の大先生方や大首長の調整など、出来る能力もなければ貫禄もない。

すったもんだの末、最終的にはコスモスラインは昭和六十三年度採択、蔵王さくらロードは平成元年度採択で、道路の完成は同時という、訳の分からない妥協案でまつまり、整備事業推進協議会をつくり、私が会長をおおせつかった。

総額百八十億の事業採択の陳情である。農水省には定期券を買ってもいいほど通った。そのエピソードを、せせらぎトークから引用する。

『佐藤永作町長と私が、本省の某係長にすごく怒られたことがある。「そんなに宮城の県南にはかり、広域農道を作ることは出来ません。」正論であることには間違いないがなかつたようである。しかし、これでは身も蓋もない。無然として私たちが部屋を出た途端、永作町長がボヤいた。「いやいや、おっかなかつた。あんなに怒らつたの

は、俺、町長になって初めてだ。』」
さらに難題は、大事業であるために、当時の建設省と農水省の縄張り争いが始まった。農水省は、全部自分の手でやりたい。ところが建設省は、構造物は当然建設省の仕事であると主張してきた。

雲の上の空中戦で県の苦勞が大変だったことは、当時陳情に参加した私が一番よく知っている。その実りが、川崎トンネルの貫通式である。

式に臨んだ蔵王町長が言っていた。「この道路は、地域の皆さん方が刈田病院に行く、最短距離である。」

時代は変わった。農産物の生産から流通の合理化を図るために作られた幹線農道をもうすぐ医療・福祉のために車が走る。

